

はじめに 紀要の予想以上の効用

校長 村田 容 常

着任した年の秋に、紀要の執筆を担当教員から頼まれた。巻頭言を1ページ書けばいいのかと思ったら、「折角だから論文か何かきちんとしたものを書いたら如何ですか」と勧められた。「えっ」と思ったが、何か書くことにした。その結果、4年間の在任中に3編の拙文を載せていただいた。1年目“数値からみた食生活の変化 国民健康・栄養調査に基づいて”、2年目“紫琴と由直 女性先駆者と反骨の農芸化学者の夫婦の足跡と限界”、3年目“辻村 みちよ 女性農学博士第一号”である。いずれも大学の講義のイントロに関連するもので、まとめるのにいい機会だった。2015年度の紀要に書いた「辻村みちよ」であるが、2016年秋にお茶の水女子大学が家政学・生活科学の諸分野において顕著な業績を挙げた女性を顕彰することを目的とする「辻村みちよ賞」を創設したのは奇縁である。

驚かされたのは、これら拙文が思いの外、多くの方に読まれていることであった。“紫琴と由直”を執筆した2014年度の紀要が出版されたあと、古在由直先生の孫である古在由秀先生からメールをいただいた。古在由秀先生は、専門分野が違うため直接面識はないが、学士院賞も受賞している日本を代表する天文学者である。「由直、豊子のことをよくお調べになったことに、感謝しております。」と書かれていて、とても恐縮した。また、私が学生時代に講義を受けた熊沢喜久雄先生とは旧制高校の同級生であるとのことであった。熊沢先生は、古在由直先生の系譜につながる植物栄養学者であり、学士院賞受賞者でもある。今回の拙文の中にも熊沢先生がお書きになったものを引用させていただいた。

どうしてお知りになったのかと不思議に思い、Webでこの拙文を検索してみた。驚いたことにちゃんとヒットした。紀要の論文がお茶の水女子大学教育・研究成果コレクション「TeaPot」の中に収録されていて、PDFファイルでダウンロードできることも分かった。また、「TeaPot」では各論文がどれだけダウンロードされたかも分かるようになっていて、その3万を越える論文におけるダウンロード数の月別順位まで記載されていた。2013年度紀要に執筆した“数値からみた食生活の変化 国民健康・栄養調査に基づいて”が、膨大な数ダウンロードされていて、その2016年月別ダウンロード数順位を見ると1位3回、2位6回であった。全く驚きである。また、本校教諭が書いた論文の中にも1位や上位にランクされているものがあつた。2015年の順位で、荻原万紀子教諭の2001年論文が1位4回、2位3回、阿部真由美教諭2005年論文が1位1回などである。本紀要が多くの人に読まれているということが分かる。

附属高校に来なければここに書いたようなことを執筆することはなかった。紀要に執筆する機会を与えていただいた本校関係者に感謝するとともに、本紀要を通じて本校の教育研究成果や教育実践活動が広く知られ、それらが様々な教育現場で役立つことを祈念して、巻頭言としたい。